歴史総合-DX

**1950年③（昭和25）NHKの誕生〜戦後のラジオ放送〜**

天皇の玉音放送で始まった戦後のラジオ放送は、日本に進駐したGHQにより国内の放送局が接収され、 日本国内の捕虜収容所の外国兵に向けて英語で「救出に行くから待機しろ」と放送された。横浜には野戦放送局 AFRS（Armed Forces Radio Service、後の FEN ）が開局し、9月には北海道・仙台・東京・名古屋・大阪・熊本でもAFRSから進駐軍向けラジオ放送が開始した。12月から翌1946年（昭和21）2月の間には、GHQ の民間情報教育局の企画で焼け残った東京・日比谷の放送会館内の日本放送協会から日本の旧体制を批判するラジオ番組「真相はかうだ（こうだ）！」が放送され、その間の1945年（昭和20）12月31日の大晦日には「紅白音楽試合」（紅白歌合戦の前身）が放送された。1946 年（昭和21）3月にはコールサインが日本放送協会から英語表記の「NHK」に改めて放送が始まり、1925年 （大正14）に日本でラジオ放送が始まって以来の受信料制度（毎月集金払い）はそのままNHKに引き継がれることとなった。「あなたはどう食べていますか」「復員だより」「民主主義講座」「尋ね人」などの番組とともに、12月には「話の泉」（日本初のクイズ番組）が始 まった。翌1947年（昭和22）の元旦に吉田首相が国民に向けて「年頭の辞」を生放送、放送の中で労働運動指導者を「不逞の輩（ふていのやから） 」と失言して問題となった。1948 年（昭和23）3月には長寿番組となる「第1回NHKのど自慢全国コンクール優勝大会」の放送開始、1949年（昭和24）は新番組ラッシュで「私は誰でしょう」（1949 ～1969）「とんち教室」（1949～1968）6月には「なつかしのメロディー」（1949～1960）8月に「うたのおばさん」（1949～1964）などの長寿人気番組が誕生した。 そして1950年（昭和25）4月にGHQは電波3法の「電波法」「電波監理委員会設置法」そして放送・放送事業者の規律を定める「放送法」を制定して日本の放送制度の枠組みを作って5月2日に公布され、法律が施行された6月1日が日本の「電波の日」となった。その 6月1日に従来の社団法人日本放送協会の一切の権利を承継した公共企業体としての特殊法人「日本放送協 会」（NHK）が誕生、11月10日にはテレビ放送の実験放送を開始した。翌1951年（昭和26）正月の3日に放送会館のNHKのラジオスタジオで男性歌手7人・女性歌手7人が出演して正月番組「紅白音楽試合」（第1回紅白歌合戦）がラジオで公開生放送された。